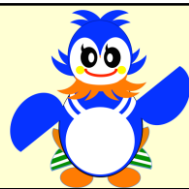




大分市立
鴛野小学校
学校だより

鴛野小通信

令和2年
10月15日(木)
NO. 23
発行者: 板井勝博



2020年度 鴛野小学校 修学旅行記

曇り空の下、修学旅行に出発

10月8日早朝6時20分、学校到着。駐車場から空を見上げると今にも雨が降り出しそうな濃い灰色の雲が空を覆っています。修学旅行前の2.3日は本当に秋らしい爽やかな天気が続いており、もう一日、あの好天が続いてくれたらなあとうれしく思いました。

午前7時15分、時間通り出発式が始まりました。担当は6年1組の子どもたち、どの子どもあいさつをしっかりと覚え、自分の役割を果たすことができていました。(閉会式での2組さんも立派でしたよ!)

終了後、すぐにバスに乗りし出発です。見送りの方々、登校中の子どもたち、交通指導員の方々などに手を振りながら修学旅行は始まりました。光吉ICまで若干の渋滞。しかし、ガイドさんの巧みな話術で、そんな渋滞も気になりません。今回の修学旅行、バスガイドさんがひとりいらっしゃるのです。バスは2台ですからガイドさんは途中でもう一台のバスに移動することになります。

心和むバス車内の雰囲気

ポツリポツリと降り出した雨の中、バスは光吉ICから高速道路に入ります。別府湾SAでトイレ休憩の後、ガイドさんの楽しい話で車内は盛り上がりしました。

素晴らしいなと思ったのはガイドさんと子どもたちの会話がきちんと成立しているということです。ともすると、ガイドさんは一生懸命に子どもたちに話しかけるのに、子どもたちは全くそれに応えなかったり、ガイドさんを無視しておしゃべりばかりしていたりすることがよくあるのです。ところが、鴛野小学校の6年生は違いました。さらに、ほのぼのとした感じでなかなかよい雰囲気なのです。

実は、その会話の中でうれしいことがありました。ガイドさんが次のように問いかけたときのことです。

「鴛野小学校の自慢は何ですか？」

すると、ある子が次のように答えたのです。

「靴箱に入れている全員の靴のかかところがそろっているのが自慢です。」

学期当初より伝えてきたことが浸透してきているなあ、意識してくれているなあとうれしくなりました。

平和の大切さを感じてほしい掩体壕

楽しく会話をしている内に宇佐市に到着。最初の見学地は城井1号掩体壕(じょういいちごう えんたいごう)です。いつの間にか雨はやみ、肌寒い風に吹かれながらの見学となりました。バスを降りた子どもたちの目の前に異様な形状の建造物、コンクリートで作られた“小山”が建っています。それは半分に断ち切れ、その断面は飛行機の形に練りぬかれています。戦時中、この中に軍用機を隠し、敵機の空襲から逃れていたのです。当時、この一帯には宇佐海軍航空隊が置かれており、戦争末期になると特攻隊も出撃していました。掩体壕の裏側には出撃した154人の特攻隊員の名前を記した石碑が設置されていました。掩体壕周辺には、滑走路跡、爆弾池、宇佐海軍航空隊正門跡、落下傘整備所など戦争遺跡が多数残されており、宇佐市は将来的に宇佐市平和ミュージアム(仮称)として整備する予定だそうです。子どもたちには、ぜひ平和の尊さを感じ取ってほしいと思います。



* 城井1号掩体壕前でガイドさんの説明に聞き入る子どもたち

* 特別攻撃隊の碑。154名の隊員の名前が刻まれています。多くの若者の命が奪われたのです。このようなことを二度と繰り返してはいけません。



まだまだ見学したかった歴史博物館

掩体壕を出発してほどなく大分県立歴史博物館（宇佐風土記の丘）に到着。正面玄関から入り、しばらく歩くと正面に、見上げるばかりの摩崖仏が展示されていました。豊後高田市にある熊野摩崖仏でした。熊野摩崖仏といえばお酒のCMで有名ですが、あの見慣れた仏様とは違います。係員の方に尋ねてみると、CMに登場する仏様の向かって右側にある仏様だとか。もちろん複製ですが、それにしてもよくできています。子どもたちは、この摩崖仏を見上げながら何を感じたでしょうか。



*熊野摩崖仏（複製）の前で所員の方の説明を聞きました。

次は富貴寺大堂実物大復元模型の見学。豊後高田市にある富貴寺大堂は、今では落ち着いた雰囲気ですが、創建当時の内部はこんなにも極彩色に彩られていたのだと知って驚きました。その後、タブレットを使った仮想現実による古墳観察なども子どもたちは体験し、博物館もいろいろと工夫をしているのだなあと感じました。

今回、本当に久しぶりに県立歴史博物館を見学して、最低2時間は見学にほしいなあと感じました。じっくり見るのならば3時間は必要です。それくらい、展示物が充実していました。社会科で歴史学習、真っ只中の6年生には本当にためになる見学だったと思います。

台風なんかに負けないぞ！ 城島高原パーク

歴史博物館を出発する時点では雨は降っていませんでした。ひょっとしたら城島高原パークで過ごす午後も何とか持ちこたえてくれるかも…という淡い期待は無残にも打ち砕かれました。高速に乗った頃、ポツポツと降っていた雨が次第に激しさを増し、トイレ休憩場所である由布岳パーキングエリアに着いた頃は横殴りの雨と風。手持ちの傘もひっくり返るくらいでした。

城島高原パークに到着し、まずは待合室へ。

そこで一通りの説明を聞いた後、昼食会場に移動です。このときは、雨はやんでいたのです。右の写真のように子どもたちは傘をささずに歩いています。昼食はカレーライス。ご覧のようにコロナウイルスの感染防止対策で対面方式ではなく一方向を向いての食事です。何だか変な感じですがしょうがありません。



食事を終え外に出ると、また雨です。この後、記念写真を取る予定なのですが「大丈夫かな？」と思わせるほどの雨。下の写真は記念写真を撮る直前の様子です。通路に映る影などから結構な勢いで雨が降っていることがわかるでしょうか。



記念撮影後、子どもたちは飛び出すように散らばっていきました。4時間後、待合室に戻ってきた子どもたちはビッショリ。タオルで拭かせ、着替えられる子は着替えさせました。そんな中で「楽しかった～」という子どもたちがたくさんいたのが印象的でした。コロナ禍の中、例年とは違う修学旅行でしたが子どもたちにとっては思い出に残る修学旅行になったようでした。（終）